

教務だより

2013年1月号
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

心を決める…DO IT NOW

茗溪塾塾長 宇野雅春

昨年末は解散総選挙があり、そのことで騒然とした年末でしたが、そのせいか正月は静かに感じました。「正月特訓」で今年は全校を回り「テーブルマッチ」に参加しながら、激励をして歩きました。どの教室にもいろんな思い出があり、授業の一コマなどが頭をよぎり、昔の生徒を思い出して懐かしい気分になりました。

ここからは、塾にとっては、一番厳しい時期です。塾ですから、受験は正念場ということです。精神的にも、肉体的にも追い込まれる時期なのですが、受験生のほとんどが、勉強に集中しているという事実だけで、辛いことよりも、充実感の方が大きいかと思えます。そして、淡々と続く作業仕事ではなく「結果」が出る仕事という点では、「ありがたい」気がします。辛くなってくると、平安を願うのが人間ですが、平安が続くと目的を見失い希望が持てなくなるのも人間です。本当の喜びを知りたければ、本当の苦しみも経験する必要があるのかもしれない。

何しろ、子供ががんばっているというのは、大人にとってはやはりうれしいことです。受験という経験をポジティブに受け止め、前向きに取り組むというのも「生きる力」ではないかと思えます。生徒たちを取り巻く現実も、決して安閑としたものではないのはわかるつもりでいますが、「自分でしか超えられない事」には誰も手が届かないということ。

昨年は、2012年、子供たちの間では「世界が終わる」と囁かれていましたが、案の定、世界の終わりは来ず、永遠の未来が目の前にはあります。東日本大震災や原発問題など現実の苦しみの中に引きずり込まれた人々も、「未来」を求めて、孤独ながら奮闘している様子も伝わってきます。どんなところにも不幸はあり、幸福もあるということかもしれません。甘えてしまうと、当然のように報いは来ます。乗り越えていく人は、「強い人」と定義されがちですが、「弱い人」より遙かに過酷な状況に多いことが多いものです。大変だ！と思っていることが、実は些細なことだったり、些細だと思っていることが実は深刻なことだったり、受け止め方で物事というのは変わってくるようです。「受験」は未来に向かうものです。その意味で、大切にしてほしいと思えます。

この頃、受験が不安という声をよく聞きます。あれこれ考えてしまうと、眠れなかったり、弱い教科に焦ったりしますが、そういうとき、何をしてもよいかかわらず、ひたすら自分の不安を訴え、その辛さをわかってくれない大人を恨んだりします。大人は大人で大変なのに…です。

受験が始まります。くよくよしている時間はありません。受験する誰もが不安なのです。ここは、心を決めましょう。自分に出来る「最善を尽くす」ということ。考え悩む時間や不安を訴える時間の少しでも、「勉強」の時間にしませんか？休息は、休息としてしっかり心と体を休めましょう。そのとき「すぐやる DO IT NOW」を励行しましょう。

わからない問題にはすぐ取りかかる…。自分がわかろうとすれば、必ず理解は進みます。「理解」してしまえば実はたやすいことも、「わからない」と決めつけてしまうと、そのレベルへは生涯到達することが出来なくなります。「わからない」という生徒ほど、授業中は寝ていたりします。つまり、自分がすべき努力を実はしていないのです。

奇跡的に成績が上がったりする生徒は、ここをクリアーしているはずですが、受験はもうすぐですが、実は今がチャンスです。やれることをすぐ始めること。作業勉強ではなく理解の勉強を…！山積みの課題をすべてやろうと意気込むよりも、目の前の課題を自分のベストで解決していくことです。焦る必要はありません。「合格」を祈ってます。